

府中市生涯学習審議会（令和元年度第3回）会議録

1 日 時 令和元年11月22日（金）午前10時～12時

2 場 所 府中駅北第2庁舎5階 会議室

3 出席者（敬称略）

(1) 委員13名

岩久保早苗委員、大谷久知委員、乙津俊博委員、木内直美委員、佐野洋委員、田頭隆徳委員、津田仁委員、友田照子委員、長畑誠委員、福田豊委員、藤井孝弘委員、渡邊和子委員、渡辺たき子委員

立石朝美委員、中村洋子委員欠席

(2) 職員4名

古田文化生涯学習課長、楠本文化生涯学習課長補佐、柏木生涯学習係長、諫山事務職員

4 報告事項

(1) 配布資料の確認

ア 資料1 府中市生涯学習審議会（第2回）会議録（案）

イ 資料2 東京都市町村社会教育委員連絡協議会
第3ブロック研修会資料（抜粋）

ウ 資料3 令和元年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会
第3回役員会・拡大役員会資料（抜粋）

エ 資料4 関東甲信越静社会教育研究大会東京大会
第2回実行委員会資料（抜粋）

オ 資料5 第50回関東甲信越静社会教育研究大会
埼玉大会資料（抜粋）

カ 資料6 府中市民生委員推薦会委員の推薦について

(2) 前回議事録の確認

各委員に校正を依頼した前回議事録（案）について、市民に公開することが了承された。

(3) 東京都市町村社会教育委員連絡協議会 第3ブロック研修会について

事務局： 10月5日（土）に多摩市立関戸公民館で行われた東京都市
町村社会教育委員連絡協議会 第3ブロック研修会に、佐野副

会長、立石委員、藤井委員と事務局で出席した。資料2は、会議の資料の抜粋となっている。

当日出席いただいた佐野副会長と藤井委員からもご報告をお願いします。

副会長： 多摩市は、高度成長期における都市開発の部分と聖蹟桜ヶ丘駅付近の従来からある古い地区があり、人口動態も変化して、問題も様々あった。地域で学校を中心に活動して、地域全体で問題に取り組む形としていた。中学校を取り上げ、地域全体が社会教育委員という事例の話があった。

委員： 開会のあいさつの後、第1部として、多摩市の地域学校協働活動の取組と課題について発表があった。多摩市では、学校・家庭・地域が一体となって、地域ぐるみで子どもを育てる体制を整えることを目的として、学校支援地域本部を設置している。ここから移行する形で、地域学校協働本部の導入を進めている。今年度から、多摩市内5校うち中学校1校で地域学校協働活動を実施している。多摩中学校地域学校協働本部の取組について説明があった。多摩中学校は、多摩市で第1号のコミュニティスクールということで、学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育てる体制を整えて、講師の発掘や連絡・調整といった教育の支援を行い、教育の充実を図っている。その後、休憩を挟んで第2部として、学校・家庭・地域の連携や協働をテーマに情報交換が行われた。7つのグループに分かれて話し合い、最終的にグループの代表が取りまとめて発表をした。意見の内容としては、地域とともに歩む学校ということで、学校の活動と地域の活動をつなげていくことが必要という意見、地域の人たちが学校に参加・協力してく中で地域の力を反映していく、そして地域も変わっていく。さらに、地域・学校・家庭の連携を常に議論して、継続していくことが必要であるという意見が出た。

副会長： 第3ブロック研修会の報告内容について、何か質問等はあるか。

委員： 府中市内の各小中学校には、コミュニティスクール、地域コーディネーターを設けていると思うが、府中市として

は、今のところは現状のままなのか、何か拡大していく予定はあるのか。

事務局： コミュニティスクールや地域コーディネーターについては、指導室の管轄になるので、ここでの判断は難しいが、今回の多摩市の取組等の貴重な情報は、きちんと共有したいと考えている。

委員： 文部科学省のいうコミュニティスクールとの関係はどのようなのか。文部科学省に申請すれば、資金提供があるような制度があり、その他に、各自治体でそれぞれ独自のコミュニティスクールを持っているケースもあると聞いている。

委員： 当日、多摩市から報告があったのは、文部科学省の提言に従って、学校支援地域本部を地域学校協働本部に変更し、地域と学校との結びつきに力を入れていると言っていた。

委員： 研修内容と関係ないが、いつ開催したものの資料なのかわかるように表記を入れてほしい。

事務局： 次回からそのように対応する。

(4) 東京都市町村社会教育委員連絡協議会 第3回役員会・拡大役員会等について

事務局： 10月29日(火)に三鷹市公会堂さんさん館で行われた、東京都市町村社会教育委員連絡協議会役員会・拡大役員会及び関東甲信越静社会教育研究大会東京大会実行委員会に長畑会長と事務局で出席した。資料3は、役員会・拡大役員会の資料の抜粋として、今年度の「ブロック研修会実施計画書」をお配りしている。2ページ目に今年度の第5ブロック研修会について記載されており、11月24日(日)に調布市で開催される。

資料4は、東京大会実行委員会の資料の抜粋として、今後のスケジュール表をお配りしている。

令和3年度に関東甲信越静社会教育研究大会東京大会が開催される。その時の東京都市町村社会教育委員連絡協議会の会長市が府中市となり、開催も府中市となる。

具体的には、1日目の全体会を府中の森芸術劇場のどりーむホール、2日目の分科会を府中の森芸術劇場のふるさとホ

ールと平成の間、ルミエール府中のコンベンションホール飛鳥を予定している。皆様には、今後、東京大会についてご協力いただくことがあると思うので、ご理解いただきたい。

当日出席いただいた長畑会長より、ご報告をお願いする。

会長： 資料3について、第1ブロック研修会は台風の影響で中止となった。府中市が所属している第5ブロック研修会は、11月24日(日)に調布市で開催される。

資料4については、関東甲信越静社会教育研究大会東京大会実行委員会の今後のスケジュールとなっている。今年度やることとしては、委託業者の選定や大会スローガンの決定等となっている。来年度から具体的な動きが始まる。概要としては、企画をして実施・運営する。協賛金も集める必要があるので、皆様の協力をお願いしたい。府中市だけで開催するわけではないが、府中市が会長市となる。

(5) 第50回関東甲信越静社会教育研究大会 埼玉大会について

事務局： 11月7日(木)、8日(金)にウエスタ川越で行われた、第50回関東甲信越静社会教育研究大会 埼玉大会に長畑会長、藤井委員、中村委員と、事務局で出席した。資料5は、埼玉大会の開催要項と基調講演の資料になる。

当日の流れは、開催要項の2ページ目をご覧ください。今大会は1,000人を超える方々が参加していた。

1日目は歓迎セレモニーとして埼玉県立飯能高等学校のチアダンス部と川越鳶組合によるパフォーマンスが行われた。その後、開会行事と基調講演、シンポジウム、大会宣言があり、最後に次年度大会のPRが新潟県からあった。新潟大会は令和2年11月12日(木)、13日(金)に長岡市にある「アオーレ長岡」で開催される。PRは、10分程度の映像を流し、登壇した新潟大会の会長からPRコメントがあった。次年度の新潟大会で令和3年度の東京大会のPRをしに行く予定となっている。

2日目は、5つの分科会に分かれて事例発表やグループ協議を行うという形だった。

当日ご出席いただいた長畑会長、藤井委員からご報告をお

願いたします。

会長： 1日目は、歓迎セレモニー、開会行事、基調講演、シンポジウム、閉会行事があった。2日目は、5つの分科会があった。私は1日目のみ参加した。これだけ大きな規模の大会を開催するには、お金がかかるので、協賛金を集めることが大切。1ページで8万円、その半分で4万円、というように値段設定がされている。30ページを目標としている。

「あなたはどう生きる？人生100年時代！～主役はあなた 明るく心豊かな社会の実現～」という研究主題でシンポジウムを行うのは少し難しいと感じた。

配付している資料5の基調講演のレジュメ2ページ目の「3 生活基盤としての地域のコミュニティ」の「社会教育のミッション 『学び』を通じて地域コミュニティの形成を」の部分をご覧いただきたい。学校の運営にも地域が関わっている。社会教育は、一人での学びではなく地域及びコミュニティの活性化につながっていくものである。

また、社会福祉協議会の動きとして、地域の課題をより身近なところで発見・共有し解決するしくみとして、地区社会福祉協議会を進めている。まずは文化センター単位、ゆくゆくは中学校単位で作るという話になってきている。

審議会の話合いも地域とのつながりを見据えながら進めていければと感じた。また、2年後の関東甲信越静社会教育研究大会東京大会も、地域に還元できればいいと思う。

委員： 1日目の全体会のみ参加した。「学びがひろく 豊かな人生」をテーマに、文教大学学園の野島先生による基調講演があった。人間は長生きをすると病気のリスクや、何もすることがないというリスクが生じるが、いくつになっても好奇心を持って、興味や関心を広げることができる点が人間と動物の違いである。人生100年時代と言われる状況にあり、人は日々の暮らしや講座、教室といった社会教育での学び、一つのつながりを通して地域の中でもっと元気になれるという話があった。その後、「あなたはどう生きる？ 人生100年時代！」をテーマにシンポジウムがあった。結論としては、人生100年時代を豊かに生きるためには、学ぶことが

大事であると感じた。

会長：分科会について事務局から説明をお願いします。

事務局： 5つの分科会があり、実施方法は事例研究とグループ協議の2種類だった。参加した第4分科会は、「社会教育のネットワークづくり」をテーマに6人ずつのグループ協議だった。NPO 法人子ども大学かわごえについて聞いてみたいと思っていたが、その話は無かった。

会長： グループの中だけで意見が完結せずに、他のグループとも共有できたら良いと感じた。

委員：NPO 法人子ども大学かわごえとはどのようなものか。

事務局： 詳しくは把握していないが、子どもたちが学校や地域を越えて、大学のプログラムを受けることができるという学びの場があるということを知ったことがあった。文部科学省のホームページでも、事例として紹介されている。

委員： 資料5の基調講演のレジュメ3ページの サークル活動の中の「みて学び、やって学び、教えて学ぶ」の実践というのが面白いと感じた。ここについて、詳しい話はあったか。これを見て、山本五十六の言葉を思い出した。

事務局： 時間の都合上、詳しい話は無かったが、山本五十六の話からこの言葉につながっていた。

委員：同じページの 広報活動の「三割教育」とは何か。

会長： 実際に社会教育に参加している方の割合が三割ということである。

委員：この大会の目的は何なのか。

委員： 日頃から社会教育に取り組んでいる方々が集まり、自分たちの活動を共有し、学び合う。そこで得た気づきや知識等は、各自治体に持ち帰り、活かす。

委員： 府中市の場合は、生涯学習審議会に持ち帰り、共有するということか。

会長：そのとおりである。

副会長： 一般社団法人全国社会教育連合の母体となる団体は、昭和38年にできたとホームページに書かれている。この団体に府中市が所属している、東京都市町村社会教育委員連絡協議会が加盟しており、活動の1つに関東甲信越社会教育研究大

会がある。今回の埼玉大会が第50回ということで、おそらく1969年くらいから始まったと推測される。昨年のお話では、公民館の地方への分権移譲の答申が出ていたので、おそらく教育の場を具体的に設置するのが最初の役割で、地域に公民館ができた段階で、それを利用して活動するということがあるのではないかと想像している。公民館の役割・位置づけが変わってきているという議論がされていると思う。

会長： 埼玉大会の会場を見て、参加者のほとんどが高齢の方という印象だった。もっと若い世代が入ってくると良いと感じた。

(6) 各小委員会の報告

副会長： 小委員会 は、7月25日(木)と10月4日(金)に開催した。検討課題は、基本施策1「誰もが学べる環境づくり」の中の重点施策「新たな参加者を促す学習環境づくり」と基本施策3「生涯学習を支える基盤の整備」の中の重点施策「生涯学習の広報の強化」である。第1回目の審議内容のまとめは、以下の4点。

- ・「子育て中の若い人たち向けの講座」「退職後に地域デビューする人たち向けの講座」「ボランティアや地域活動につながる講座」が少ないのではないか。
- ・講座の企画主体が殆ど運営者側に偏っている(特に各文化センター)
- ・もっと市民の側からの企画が作られるような仕組みが必要ではないか。
- ・より具体的な提言は、「文化生涯学習課」所管の生涯学習センターや文化センター(地区公民館講座)に対するものになるとしても、そこに限らず、図書館や美術館博物館、スポーツ施設、プラッツについても、この小委員会では提言の対象としていいのではないか。

第2回目は、第1回目の内容まとめをもとに、どのようにすれば開設講座の幅を広げることができるか検討し、施設の管理制度の確認をするということ、施設ごとの対応の仕方について話し合った。広報については、既存の仕組みと組織を利用することが良いとの方向性を得た。

「新たな参加を促す学習環境づくり」について、以下の2点

の意見が出た。

- ・施設ごとに管理制度が違うことから、学習施設ごとに意見をまとめ要望するべきである。
- ・講座を企画・運営する指定管理者に対しては、要望にとどめるのではなく、その評価を行うべきである。前回要望に対して、実施の状況を検証し、その評価結果を合わせて提示し、改善を求めるようにすることが望ましい。

主な施設として、生涯学習センター・プラッツ・市民会館・文化センターがある。各地域にある文化センターは、府中市が直接管理しており、予算を府中市が支出しているので、直接要求ができるが、その他の施設は指定管理者制度となっているので、要望の仕方が異なる。生涯学習センターについては、「悠学の会」との三者会議が実施されているので、そうした会を通じて魅力的な会議を行いたい。

プラッツ・市民会館については、要望は毎年行っているが、要望の時に評価を入れると良いと感じた。

「生涯学習の広報の強化」については、YouTubeなどの現代ネットメディアの積極的な活用を行う。動画を作るのは大変なため、コンテンツの作成については、悠学の会の映像グループを通じて文化活動として映像作成を行っている団体に作ってもらうというのも考えられる。ただし、オーソライズは生涯学習審議会が行わなければならないと考える。最終的には、広報課にアップロードの依頼をするという形で、既存の仕組みを活用し、生涯学習の広報の強化もできるのではないかと考えた。

小委員会 の報告は以上である。では、小委員会 の報告に移る。

会長： 小委員会 の大きな流れとしては、「学び返し」を府中市に合うものにし、多くの人に取り組めるようにすることと、その中で地域に活かしていくことが課題としている。その中で、各委員の「学び」と「返し」の経験を共有し、共通点を探し出した。

基本施策2について考えるためには、学んだものをどう活かしていくのか、どう還元していくのかといった「学び返し」の「返し」を活性化するためにどのような仕組みや機会が必

要かについて話し合った。また、小委員会では、市民活動センター プラッツの施設見学を行った。当日は、施設見学及び市民活動センター運営グループのNPO 法人エンツリーの理事長兼プラッツの館長にお話いただいた。プラッツは協働推進課の管轄となっており、文化生涯学習課と異なる。

話し合いから見えてきたことは、以下の6点。

- ・「学び」はあくまで個人個人が行うもので、市の講座等以外でも、それぞれの暮らしや仕事を通じてさまざまな「学び」が行われている。「学び返し」は、言葉としては伝わっていないが、やっている人はいるのではないか。やっている部分をもっと目に見える形にできれば良いのではないか。
- ・その「学び」を他の人や「社会」へ還元することについては、一人ひとりが自分のできる範囲で自主的に行っている。
- ・しかしながら、少子高齢化社会の中で、地域課題解決にあたって市民の自主的な活動や「協働」が重視されている現状を考えると、「学び返し」の「返し」の部分をこれからどのように活性化させるか、が課題である。
- ・「返し」を意識的に行っている事業としては、プラッツによる市民活動支援の一連の講座が挙げられる。ここでは、講座の修了生が自主的に活動を開始していけるよう、フォローアップを行っている。また地域活動や協働を担う「つなぎすと」養成講座も実施している。さらに施設の中に市民が自由に集って話し合い等ができるフリースペースが設けられている。
- ・生涯学習センターは数多くの講座が開催されており、府中市の生涯学習の中心である。しかしながら、「返し」を意識して設計された講座や修了者へのフォローアップは、あまり多くないと思われるので、今後ヒアリングが必要だと考える。また施設の広さに比して、市民が自由に集えるスペースが少ない。
- ・文化センターではさまざまな地域住民の交流や文化学習の場が作られているが、ここでも「返し」を意識してフォローしているようには見えないため今後ヒアリングが必要なのではないか。また地域に根ざした場として、地域課題解決に向けた拠点としての機能も今後は求められるのではないか。

今後の話し合いの方向性としては、生涯学習センターや文化センターにおいて、「学び返し」の「返し」の部分を活活化させるためには、どのような仕組みや活動が必要かを検討する。基本的には、生涯学習センターと文化センターについて検討する想定ではあるが、図書館や美術館等のその他の施設のあり方を「学び返し」の視点から考えても良いのではないかと。

委員： 先ほど出てきた、話し合いから見えてきたことの中の生涯学習センターについて、『返し』を意識して設計された講座や修了者へのフォローアップは、あまり多くないように思われる」とあったが、私は「返し」を意識した講座はあると思う。地域の担い手を作る生涯学習ファシリテーター養成講座や自分の知識・技術・ノウハウを市民に返すための生涯学習サポーター養成講座、ボランティア養成講座がある。さらに、市民企画講座や生涯学習フェスティバル、悠学の会もある。悠学の会のパソコングループは、22名の会員で構成されており、年間20講座位を企画している。また、府中再発見講座もあり、「返し」を意識した講座は20～30件あると思う。これらは第3次府中市生涯学習推進計画に記載されている。今後のヒアリングで実態を把握していただきたい。

会長： ヒアリングを通して現状を把握し、今後の話し合いをしていきたい。

事務局： 長畑会長の説明にもあったとおり、今後ヒアリングをしていき、講座の実態について、視野を広く見ていきたいと思っている。今回の報告がそのまま答申につながるわけではない。今後、皆様の意見を踏まえ、精度を高めて答申につなげていきたいと考えている。

委員： 小委員会 の報告にあったように、生涯学習センターは指定管理者が企画・運営をしていることがわかった。どの地域でも共通で標準化された講座をプログラムとして組むという傾向が強くなっていると感じる。「学び返し」というコンセプトを指定管理者がどのように講座企画に取り入れているのかを知りたい。

事務局： 3月に第3次府中市生涯学習推進計画を策定し、生涯学習センターの指定管理者にも情報提供をしている。計画の冊子

を渡すだけではなく、「学び返し」に重点を置いているため、計画の概略を説明している。「学び返し」という視点で講座の企画をして欲しいと話している。それを踏まえ、今後の講座の企画に反映されることを期待している。定例で指定管理者と事務局で打合せがあるため、進捗状況を把握する時間を設けている。その中で、確認等をしていきたいと考えている。

5 審議事項

(1) 第3次府中市生涯学習推進計画の具体化に向けて

会長： 最初に、小委員会 の方で、小委員会 の内容についての質問や意見を聞きたい。

委員： よくまとまっていると感じた。また、生涯学習センターを利用する市民の声を少しでも反映できるような形にできればいいと感じた。

委員： 生涯学習の広報の強化という点において、報告にもあったとおり悠学の会の映像グループの話が出たが、まさに我々が活躍できる場だと感じている。積極的に活用していただきたい。

委員： 市が生涯学習に携わるにあたり、市民が普段安心して暮らせるというのが1つのポイントと考える。つまり、安心していない部分がある。例えば、子育てで困っているなど生活上で困っている様々な問題をフォローすることは、行政が生涯学習を支援するうえで必要な方向性だと感じる。小委員会 の報告にあった、「子育て中の若い人たち向けの講座」「退職後に地域デビューする人たち向けの講座」「ボランティアや地域活動につながる講座」が少ないのではないかという意見に賛同する。生活の中でも子育ての部分と退職後の部分に困っている方が多いのではないかと感じている。そこをフォローすることによって、その間の年代にも関係し、全体が豊かな生活になると考える。市民が何に困っているかを把握し、内容や対象を絞り、生涯学習講座のあり方を考えていくことが大切だと感じた。

委員： 「しなければならない」ではなく「したい」という自主

的な考えが大切だと考える。視点を広げて生涯学習について考えていきたいと思った。

委員： 人生100年時代と言われるようになり、この先どうなっていくのかという不安を感じる。近隣住民からも生涯学習センターの必要性は聞いている。元気で100年を生活していくためにはという視点で今後審議していきたい。

会長： 小委員会 も小委員会 も、地域に一番近い存在である文化センターも重要なポイントとなると考える。

委員： 広報については、行政カレンダーを作り、年間行事を記載し、配布するのも良いのではないか。スポンサーを付ければ、無料でできる。

委員：文化センターは全館直営なのか。

事務局：そのとおりである。

委員： 小委員会 の報告の中で、文化センターの予算は府中市が支出するので直接要求ができるという話があったが、指定管理も府中市から支出されているのではないか。

事務局： 指定管理料は、年間の維持管理費と人件費の支出見込み金額の合計から利用料金の収入見込み額を差し引いた額を算出している。指定管理者は、その予算の範囲の中で、事業の企画・運営・施設管理等を行っている。一方、文化センターが実施している公民館の予算は、あらかじめ決められた予算の範囲以内で公民館担当者が事業を企画・実施しており、予算はその都度必要な経費を文化生涯学習課から支出している。

副会長： 施設に要望する機会はあるが、その要望が実現したかどうかを評価することが重要だと考える。具体的にどのようにしていくべきか、今後議論したい。悠学の会については、今後お願いをすることもあると思うが、積極的に連携していきたい。

会長： 小委員会 については、以上。引き続き、次回の小委員会で審議を進めていただきたい。それでは、小委員会 について、小委員会 の委員の方々からご意見をいただきたい。

委員： 個人的には、刺繍やフラダンスをやっており、時々先生が

ら申し出があり、ボランティアでフラダンスを教えている。これも「学び返し」の1つだと思う。盛大に「学び返し」をしているという人は少ないかもしれないが、個人的に「学び返し」を行っている人はたくさんいると感じる。講座を受けた人たちが、どのように返していくかを考えていけたらと思う。

委員： 生涯学習センターから遠い地域に住んでいるため、各文化センターが重要になってくると考える。今までに参加した活動で、2つの文化センターに絡むことがあったが、文化センター地域ごとの参加者の意識の違い等を感じた。どのような形で文化センターでの活動が活発にできるかを、引き続きご審議いただきたい。

委員： 生涯学習センターの施設全体の広さを考えた時に、市民の自由に使えるスペースが少ないというのに共感した。関東甲信越静社会教育研究大会埼玉大会の基調講演のレジюмеの中に「雑談・世間話の中に『学び』はある」と書いてある。雑談するスペースや市民が自由に使えるスペースは、必要だと思う。文化センターも市民が自由に使えるスペースは少ないように感じる。

委員： 「地域」をキーワードとしているが、町内会との接点が少ないのが残念。町内会でいろいろな活動をしていると、様々な問題点が見えてくる。問題解決というのは、学びと一体にあるもののため、現場の最前線との連携が取れば良いと感じた。文化センターの活動を活性化させるという意見に大賛成。町内会は、文化センターを基盤にすることが多い。町内会を通じて、各町会・町内会が連携することもある。そのような観点も入れていただきたい。

自分も地域デビューを果たして2・3年になる。新鮮な感覚と驚きを得ている。東京都から「地域の底力発展事業助成」をもらい、イベントを行う中でわかったことは、地域には各領域で非常に優秀なプロの方がいる。様々な知識と知恵を持った方がいるので、そのような方々を活かし、「学び返し」に加えて、地域返しという視点も必要だと感じる。地域に住んでいる、素晴らしい技能や知識を持って

いる方たちに、地域に対して貢献してもらおうという仕組みも良いのではないかと思った。

委員： 現在の府中市の生涯学習センターで実施されている講座は、民間のカルチャーセンターで実施されているような文学・芸術・語学・スポーツ等について安い金額で受講できる。民間のカルチャーセンターと比べると、はるかに安い。安く受講できる代わりに、学んだことを社会に還元することが当たり前だという意識を持って受講することが必要だと考える。受講者に「学び返し」の返しの意識を持ってもらうことが重要。そのためには、返しの機会を設けることも必要。

委員： 武蔵台文化センターの近くの小学校に勤めている。先日、自治会や学校の共催で、地域の運動会が開催された。学校も、小学校と中学校またがっており、とても素晴らしい運動会だった。武蔵台文化センターでは、インターネットで問題になっていることについて話し合いが行われる等有意義な活動が行われており、必要な情報を手に入れる拠点となっていると感じている。台風19号の際に、自分の学校も避難所となった。学校のコミュニティスクールの中で、地域の方たちが防災会議を運営している。避難してきた方たちの心情を汲みながら運営しており、防災危機管理課の方から「自治の力が育っている」とお褒めの言葉をいただいた。運動会や避難所運営等で大人がやっていることを子どもが見ることで、自分たちが次に活かし、循環している。そういったことから、子どもの成長を感じるとともに、「学び返し」が実際に行われていると実感した。

また、悠学の会がどのような経緯でできたか知りたい。

委員： 2004年の4月に悠学の会ができた。その2年前に、府中市が生涯学習センターを拠点としてボランティアをまとめる動きがあり、その後できたのが悠学の会であると認識している。できた当初は7つのグループがあったが、現在は5つのグループで活動している。

委員： どのようなボランティアを行っているのか。

委員： 先ほど述べた「府中再発見講座」のように、生涯学習セ

ンターの講座を作っている。他にも、映像グループは、府中の映像を撮り、生涯学習センターの講堂で発表をしている。芸術文化祭の撮影も行っている。また、パソコングループは、市民のニーズを把握し、年間約20講座を自主的に企画・運営している。毎年開催している生涯学習フェスティバルの中の特別講演会の内容を録音し、文字起こしをして冊子にまとめている。様々な活動を幅広く行っている。現在、人数は64人おり、54歳から90歳まで所属している。

委員：まさに「学び返し」であると感じた。

委員： 会社で学んだこと、定年後学んだことを市民に返すなど、様々な「学び返し」を行っている。

副会長： 防災あるいは高齢化した時、人が人として生きていけなくなってしまう時にどうするか、そういう能力がだんだん失われていくことに対して、問題点が現代化している。そこに対する「学び返し」に焦点を当ててはどうかと感じた。いろいろな現代的な知識を与えていくことは、講座の改善で可能だが、問題点が現代化していくことについては、高齢化と防災という観点における人が人として生きる意味での能力といったものを伝えていかなければならないと考える。「学び返し」の解釈は色々あるかもしれないが、時代に沿って「返す」という点を多少絞っても良いのではないかと感じた。

委員： 府中市には、生涯学習サポーターとして幅広い分野について学びを提供する意思表示をしている方々が登録している。これを活用する方向で考えてほしい。また、ファシリテーターの活用もしてほしい。

委員： 佐野副会長の防災の話に関連するが、文化センターや各小中学校に防災鍋が設置されており、灯油と電気で動く。災害があった時には電気は来ていないという話がいつも出る。私が所属している自治体は、餅つきをする時はあえて薪を使っている。新しいことを学ぶことも大切だが、昔のことを学ぶ場があっても良いと感じた。

委員： 地域の文化センターの活用について、人気講座や講演会

のライブ放送や再放送があれば、忙しくて行けない人や時間が合わない人等も見ることができる。

委員： 図書館は様々な趣味や教養を持っている人たちが集まる。その集まっている人をうまくグルーピングするのも良いのではないか。図書館は、生涯学習の核であり発信地という位置づけだと考える。図書館で学びの種を作り、その後、生涯学習センターや文化センターに広がるというような流れにつながる可能性がある。

委員： 津田委員の意見に賛成。「未来をつくる図書館」という岩波新書の本がある。ニューヨークの公共図書館が紹介されており、単なる本の貸し出し場所ではない。府中でも、図書館を有効的に活用できればと思う。

会長： 生涯学習センターへのヒアリングは今後行う必要がある。地域とのつながりの深い文化センターをしっかりと見ていく必要がある。そこから地域の課題につながっていくと考える。

(2) 府中市民生委員推薦会委員の推薦について

【審議結果】 佐野副会長を推薦することとなった。

7 その他

(1) 次回の開催について

委員の都合を挙手にて確認し、次のとおりとなった。

小委員会： 1月23日(木)午前10時から12時

小委員会： 欠席委員と調整後、決定する。